農 研 速 報

令和5年3月7日発行

茨城県農業総合センター農業研究所
〒311-4203 茨城県水戸市上国井町3402
TEL:029-239-7212 FAX:029-239-7306

麦の生育状況(3月3日現在)

地域名	麦種(品種)	生育ステージ	対平年遅速	生育(作柄・品質)概況等	備　考
水 戸	11月4日播種 小麦 (さとのそら) 六条大麦 (カシマムギ) (カシマゴール) 11月21日播種 小麦 (さとのそら)	幼穂形成始期～ 幼穂形成期 節間伸長開始期 節間伸長開始期 幼穂形成始期～ 幼穂形成期	9日遅い 8日遅い 10日遅い 2日遅い	生育状況(過去5年間の平均値との比較): (11月4日播種) ●さとのそら 主稈葉数、草丈、茎数は平年並だった。 ●カシマムギ 主稈葉数は平年並、草丈は平年並、茎数は多かった。 ●カシマゴール 主稈葉数は平年並、草丈は平年並、茎数はかなり多かった。 (11月21日播種) ●さとのそら 主稈葉数はやや多く、草丈は平年並、茎数はかなり多かった。 ◇主稈長から予測した茎立期 (11月4日播種)さとのそら:3/30頃、カシマムギ:3/20頃、カシマゴール:3/17頃 (11月21日播種)さとのそら:4/2頃 ◇気象概況:2月15日～3月3日(過去5年間の平年値との比較) 上記期間の平均気温は6.0℃で、平年並(6.2℃)だった。降水量は3mmで、平年(58mm)よりかなり少なかった。日照時間は131時間で、平年(106時間)より長かった。	【留意事項】 ・「対平年遅速」は、主稈長から予測される茎立期を基に表記した。 ・「節間伸長開始期」は、80%以上の茎の節間が5mmに達した日。 【今後の管理】 ・晴天が続き圃場が乾いているときに麦踏みを行う(茎立期前まで可能)。 ・適期追肥のため、資材等を準備する。 ①地力が中庸な圃場では生育量が過剰でなければ茎立期に追肥する。 ②低タンパク傾向の圃場では出穂前15日頃に追肥する。 ③倒伏の恐れのある圃場や高タンパク傾向の圃場では追肥しない。

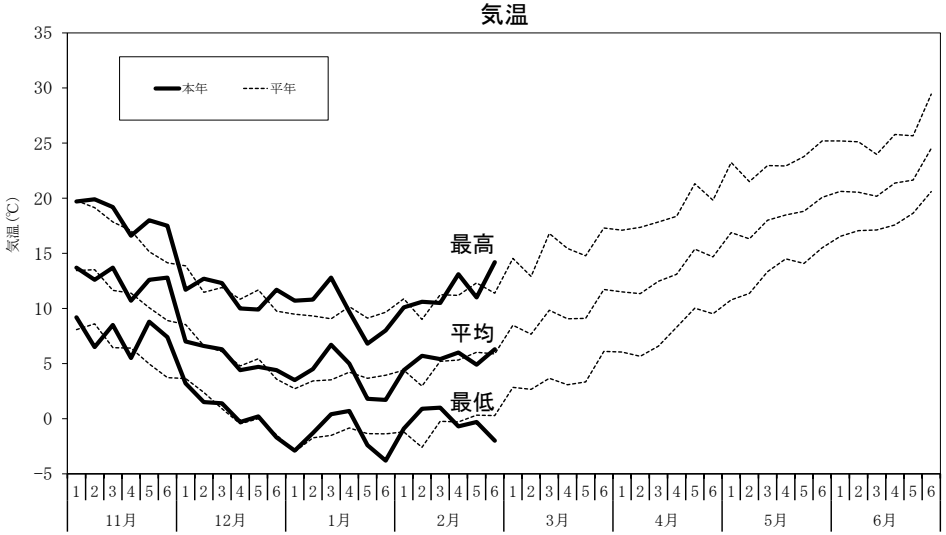
表 畑における生育(水戸市 茨城県農総セ農研 作物研究室)

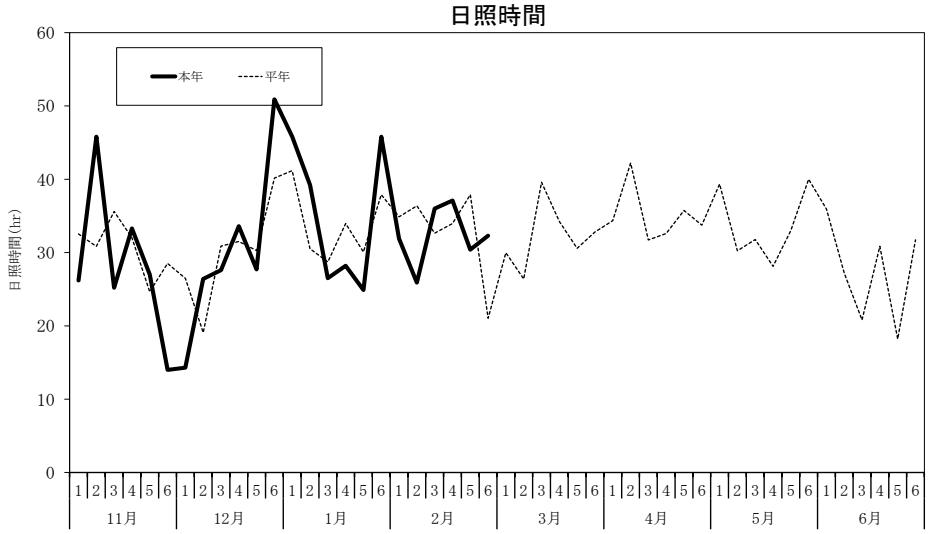
播種期(月.日)	麦種	品種名	主稈葉数 本年(枚)	主稈葉数 前年差(枚)	主稈葉数 平年差(枚)	草丈 本年(cm)	草丈 前年比(%)	草丈 平年比(%)	茎数 本年(本/㎡)	茎数 前年比(%)	茎数 平年比(%)	葉色(SPAD値) 本年	葉色(SPAD値) 前年比(%)	葉色(SPAD値) 平年比(%)
11.4	小麦	さとのそら	7.9	+0.7	+0.2	14.6	139	89	1,668	83	103	49.2	100	103
	六条大麦	カシマムギ	7.5	+0.7	+0.1	18.1	166	107	1,302	94	116	54.5	101	101
		カシマゴール	8.3	+0.9	+0.1	19.9	161	104	1,585	114	125	42.4	96	99
11.21	小麦	さとのそら	6.2	+0.7	+0.3	10.3	144	93	1,213	124	133	49.8	100	106

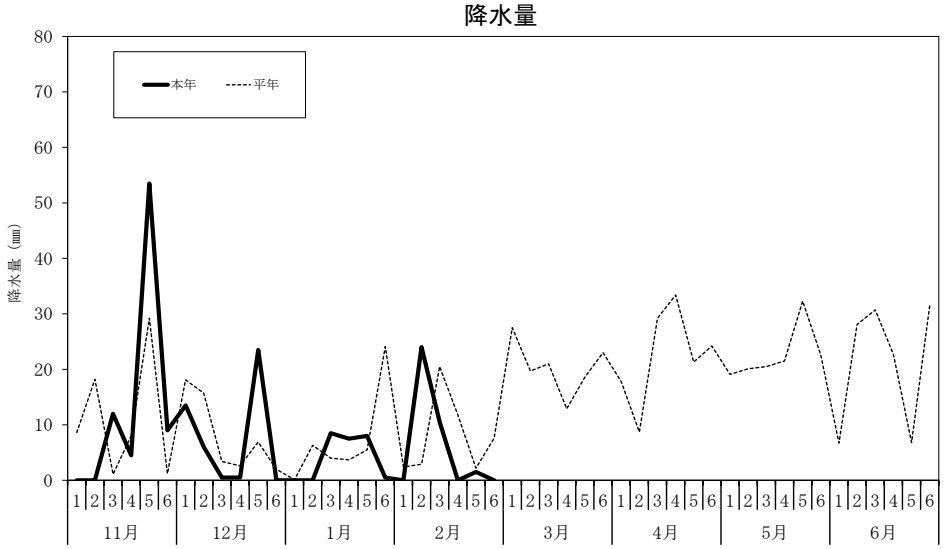
播種期(月.日)	麦種	品種名	主稈長 本年(mm)	主稈長 前年差(mm)	主稈長 平年差(mm)	主稈幼穂長 本年(mm)	主稈幼穂長 前年差(mm)	主稈幼穂長 平年差(mm)	主稈長から予測した茎立期(月.日) 今後の気温の推移(平年比) −0.5℃	0℃	＋0.5℃	平年値
11.4	小麦	さとのそら	4.5	+1.2	−3.4	1.3	+0.5	−0.3	3.31	3.30	3.28	3.21
	六条大麦	カシマムギ	7.7	+3.3	−5.2	3.4	+1.5	−0.7	3.22	3.20	3.19	3.12
		カシマゴール	9.0	+3.5	−7.7	4.0	+1.6	−1.0	3.18	3.17	3.16	3.07
11.21	小麦	さとのそら	3.6	+0.4	−0.6	1.0	+0.4	0	4.03	4.02	3.31	3.31

耕種概要 1)圃場(来歴):表層腐植質黒ボク土(前作休耕畑)　2)播種量:0.8kg/a
3)施肥量:N−P_2O_5−K_2O＝0.6−0.6−0.6kg/a　4)播種様式:畦幅30cm、シーダーテープ播種
5)平年値: 平成29年～令和3年播種の結果の平均。　6)麦踏み:12月27日、2月2日、2月22日

麦（令和4年播種）における半旬別気象経過図
（水戸地方気象台データを参考に作成。平年値は過去5年間の平均値）





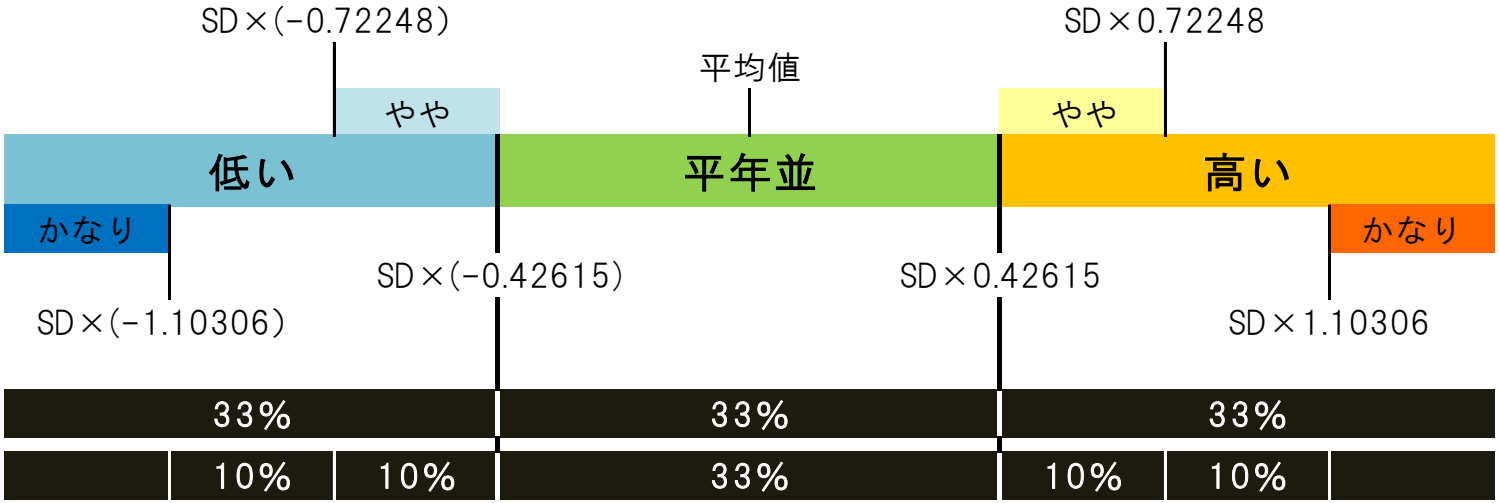


さとのそら　11月4日播種（3月3日撮影）

カシマムギ　11月4日播種（3月3日撮影）

カシマゴール　11月4日播種（3月3日撮影）

さとのそら　11月21日播種（3月3日撮影）

気象概況および生育状況における表現について

平年値（過去5年間の平均値）との違いの程度を、「低い（少ない）」、「平年並」、「高い（多い）」等の階級区分で表しています。
各階級の幅は、下図のように、統計期間における出現率が等分（それぞれ33%）となるように決めています。
さらに、「低い（少ない）」、「高い（多い）」については、補足的表現として下図に示す出現率となるように「やや」、「かなり」と表しています。